

## 新日本フィルハーモニー交響楽団

New Japan Philharmonic

上岡渾身のブルックナー

8/2

[プレコンサート]

14:20~14:40

※本公演と同じお席でお楽しみください。

〈出演〉

ヴァイオリン: 崔 文洙

ヴァイオリン: 丹羽紗絵

ヴィオラ: 森野 開

チェロ: 佐山裕樹

〈曲目〉

ハイドン: 弦楽四重奏曲第67番

二長調 op. 64-5,

Hob. III: 63 『ひばり』

[開 演] 15:00

[終演予定] 16:30

※途中休憩はありません

出演

指揮: 上岡敏之

Toshiyuki Kamioka, *Conductor*

コンサートマスター: 崔 文洙

Munsu Choi, *Concertmaster*

曲目

ブルックナー: 交響曲第7番 ホ長調 (ハース版)

[65分]

Bruckner: Symphony No. 7 in E major (Haas Edition)

第1楽章 アレグロ・モデラート

第2楽章 アダージョ

第3楽章 スケルツォ

第4楽章 フィナーレ

※演奏時間は目安です。 ※出演者・公演内容につきましては変更が生じる場合がございます。

皆様にコンサートをお楽しみいただくために、  
ご協力をお願いいたします。

開演中は、携帯電話・スマートフォン・タブレット端末など音や光を発する電子機器の電源をお切りください。光を強く反射する物は鞆におしまってください。



時計のアラーム・時報などは設定の解除をお願いいたします。



ハウリングの発生を防ぐために、補聴器などが正しく装着されていることをご確認ください。



演奏中の入退場はご遠慮ください。全席指定の公演です。ご自分の席でお聴きください。



許可のない写真撮影・録音・録画は固くお断りいたします(カーテンコール時を除く)。



演奏中に音が出ないように十分ご注意ください(鈴のついたお手荷物・鉛の包みを開ける際の音・プログラムをめくる音など)。



演奏中の会話はお控えください。



演奏が終わったとき、音が消えゆく余韻を十分に味わってから拍手・ブラボーなどの声援をお送りください。



客席内での飲食はご遠慮ください。



館内では咳エチケット・適切な手指消毒を推奨しております。

終演後のカーテンコールの撮影が可能です。

撮影は自席にご着席のまま、周りのお客様へご配慮いただきますようお願いいたします。

※アンコール演奏中は撮影いただけません。 ※撮影前にフラッシュ設定が「オフ」になっているかご確認ください。 ※目線より高い位置での撮影や、スマートフォン・携帯電話以外のカメラでの撮影、自撮り棒の使用はご遠慮ください。 ※SNSなどに投稿する際は、ほかのお客様の映り込みにご注意ください。

主催: 川崎市、ミュージザ川崎シンフォニーホール(川崎市文化財団グループ)

後援: 川崎市教育委員会、公益社団法人 日本オーケストラ連盟、J-WAVE 81.3FM、TBSラジオ

助成: 文化庁文化芸術振興費補助金(劇場・音楽堂等機能強化推進事業)

独立行政法人日本芸術文化振興会

Colors, Future!  
いろいろって、未来。

川崎市



音楽のまちかわさき



文化庁

# 最初の大成功作『交響曲第7番』による 大器晩成型作曲家ブルックナー

## ブルックナー：交響曲第7番（ハース版）

### 初めて大々的な成功を収めたブルックナーの代表作

生涯に交響曲と宗教曲以外をほとんど手がけなかったアントン・ブルックナー（1824～1896）にとって、オペラの世界で次々と革新的な音楽を生み出すリヒャルト・ワーグナーは、神の如き存在であったろう。1881年9月に『交響曲第6番』の作曲が終了し、同月には早くも『第7番』の作曲が始まっている。1882年には第1楽章、第3楽章の順に作曲が進められ、1883年1月に第2楽章のスケッチが完了した。

2月13日、ワーグナーがヴェネツィアで客死。この報せを受け取ったとき、ブルックナーは第2楽章の仕上げを施していた。圧倒的な盛り上がりを見せ、やがて静かに終わっていくその終結部（練習番号X以降）について、ブルックナーは「巨匠のために心からの葬送音楽を書いた」と述懐している。同年9月5日には第4楽章の作曲を終わらせた。当時ライプツィヒ歌劇場で活躍していた指揮者アルトゥール・ニキシュに、この曲の初演を直談判し、1884年12月には同地での初演が実現。翌年にはミュンヘンでも演奏が続く。この上演によって、ウィーンにおいてもブルックナー作品への興味がかき立てられ、この作品は「初めてブルックナーが大々的な成功を収めた」作品としての地位を確立。このとき、ブルックナーはすでに還暦を迎えていた。

### 『第7番』の大成功の要因は？

『第5番』では形式的要素を、『第6番』では歌謡的要素を前面に出したブルックナー。続く『第7番』では、両者をほどよく調和させようと試みたように思われる。『第5番』において、ブルックナーは複雑かつ精緻極まるポリフォニーを駆使し、バッハ以来のドイツ音楽の伝統をみずから完璧に身につけていることを印象づけた。逆に『第6番』では、その複雑さを反省したのか、敢えてわかりやすく、旋律そのものを聴かせる方向へと舵を切る。『第7番』が大成功を収めた要因のひとつには、こうした両極端な音楽の性質をバランスよく持ち合わせ、それを効果的に聴衆へと伝える術をブルックナーが会得したため、とは言えないだろうか。

### 円熟期を迎えた作曲家の自信あふれる傑作

かすかな弦楽器のトレモロとともにホルンとチェロによって第1主題が始まる第1楽章の冒頭こそ、『第4番』などと同様の、ブルックナー独自の曲冒頭部分である。3つの主題を順番に登場させる独自のソナタ形式も自身のこれまでの様式を踏襲しているが、50小節を超える規模の大きな終結部には、それらを突抜けた作曲家の自信があふれている。

この作品にも他の作品と同様に版問題が存在するが、作曲家自身が改訂を施していないので、初版（1885年）、ハース版（1944年）、ノーヴァク版（1954年）ともに、その違いは大きくない。もっとも議論となるのは、第2楽章の練習番号Wにおける打楽器の扱い。ティンパニ、トライアングル、シンバルは後から総譜に紙が貼られて付け足されたものの、その右上に「無効」と書き入れられている。レオポルト・ノーヴァ

クは、この「無効」をブルックナーの筆跡ではないと判断して打楽器を採り入れたが、現在ではやはり作曲家の筆跡なのでは、という説も登場しており、その判断は指揮者に委ねられている。この楽章最後で活躍するワーグナー・チューバは、『ニーベルングの指環』においてワーグナーが陰鬱な地底の雰囲気を描写するために生み出したもの。独特の荘重な、それでいてもの哀しい雰囲気を生み出している。

第3楽章のトランペットによる冒頭主題は、雄鶏の朝の鳴き声からヒントを得た、といわれる。7度で下降するモチーフを自然につなぎ合わせる巧みさに、ブルックナーの進境が感じられよう。

第4楽章でも3つの主題が用いられるのは定例通りだが、第1主題を变形して登場する第3主題は、全楽器によるユニゾンで荒々しく演奏される。再現部では、普通は1、2、3の順番に演奏される主題が、逆に3、2、1の順で登場し、その輝かしい雰囲気のままに終結部へと至る。この交響曲の成功に自信を得たブルックナーは、各楽章の規模をより膨らませた形で、次の交響曲に取り組みることとなる。



ブルックナーの肖像画（フェリー・ペトラト画、1889年）

## 上岡敏之からのメッセージ

### ブルックナー7番交響曲の世界へ

新日本フィルとは、音楽監督時代の2019年9月にもこの曲を演奏しました。一緒に音楽をした仲間、それを支えてくれた事務局のみなさんと再会できるだけで幸せな気分になりますが、音楽を通してコミュニケーションをとれることに心より感謝しています。

初めてミュゼ川崎で演奏したのも新日本フィルとでした。ミュゼ川崎は私にとって、繊細な表現が伝わる最高の会場です。

ブルックナーはたいてい、ひとつの交響曲を書き終わるとすぐに次の作品に着手しています。7番も例外ではありません。

きっと、前曲を作曲中にそこに入り切らない何かがたくさんあったのでしょうし、その時に全く違った次元で、新しいイマジネーションが湧いてきたのかもしれません。6番の交響曲が完成したのが1881年9月初旬で9月末に7番に着手しています。

第1楽章からはじめ、最初に完成したのは第3楽

章でした。ホ長調のはずがイ短調に。こういうところは私自身と似ているとも思っています。

作曲から初演までは紆余曲折でした。ウィーンで初演は叶わず、完成した1年以上あとにライプツィヒではじめて演奏されました。

今回はハース版を使いますが、連弾譜、リハーサルでのコメント、リハーサルの時の問題点など、ブルックナーを含めたいろいろな人達の書簡も検討して、少ないリハーサルで、どのように取り入れていくかを考えています。

皆様、ブルックナーの7番交響曲の世界に入られて、いろいろな体験をされることを願ってやみません。



©堀田カヲ

## ■出演者プロフィール



©武蔵幸

指揮：上岡敏之 Toshiyuki Kamioka, Conductor

ドイツを拠点に指揮者として活躍、ピアノの名手としても知られている。東京藝大、ハンブルク音大で研鑽を積む。キール市立劇場ソロ・コレペイトール及びカペルマイスターとしてキャリアを開始。以後、ヘッセン州立歌劇場音楽総監督、北西ドイツ・フィル首席指揮者、ヴッパータール市立歌劇場音楽総監督、ザールランド州立歌劇場音楽総監督、ヴッパータール響首席指揮者、新日本フィル音楽監督、コペンハーゲン・フィル首席指揮者等を歴任。ヴッパータール響とは2度の日本ツアーで絶賛を博す。2002年ホテルオークラ音楽賞、2007年渡邊暁雄音楽基金音楽賞、2014年齋藤秀雄メモリアル基金賞を受賞。現在、コペンハーゲン・フィル名誉指揮者、ザールブリュッケン音楽大学指揮科正教授を務める。

## ■オーケストラ・プロフィール

新日本フィルハーモニー交響楽団 New Japan Philharmonic



- 【創設】 1972年、小澤征爾を中心に自主運営のオーケストラとして創立。
- 【指揮者】 小澤征爾(桂冠名誉指揮者・故人)、佐渡 裕(音楽監督)
- 【ホーム・コンサート・ホール】 すみだトリフォニーホール
- 【楽団ウェブサイト】 <https://www.njp.or.jp/>

### サマーミュージア特設サイト

- アンコール曲 ●ほぼ日刊サマーミュージア
  - パートナーショップ特典
- こちらからご覧ください。  
<https://www.kawasaki-sym-hall.jp/festa/> →



### アンケート ご協力をお願いします。

- ほぼ日刊サマーミュージアに感想が載るかも?  
<https://gws-net.com/summermuza2025/> →



### 浴衣 de SUMMER MUZA!

- 浴衣でご来場の方へ特製ステッカーを差し上げます。  
 開場・終演時に、ホール1階「主催者受付」へお立ち寄りください。

## ミュージア川崎シンフォニーホール ホールスポンサー

<p>【特別賛助会員】</p> <p>法人</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>川崎幸病院</li> <li>川崎信用金庫</li> <li>キャノン株式会社</li> <li>サントリーホールディングス株式会社</li> <li>ジェフト株式会社</li> <li>三井不動産グループ</li> </ul>	<p>【賛助会員】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>税理士法人あおぞら会計</li> <li>株式会社イープラス</li> <li>ENEOS株式会社</li> <li>有限会社エムシーエス・デザインズ</li> <li>神奈川臨海鉄道株式会社</li> <li>川崎アゼリア株式会社</li> <li>公益社団法人川崎市医師会</li> <li>川崎市信用保証協会</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>公益社団法人川崎市病院協会</li> <li>一般社団法人川崎市薬剤師会</li> <li>川崎鶴見臨港バス株式会社</li> <li>川崎日航ホテル</li> <li>かわさきファブ株式会社</li> <li>川崎臨港倉庫埠頭株式会社</li> <li>ケイジーケイ株式会社</li> <li>公益財団法人JFE21世紀財団</li> <li>株式会社シグマコミュニケーションズ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>セレサ川崎農業協同組合</li> <li>大本山川崎大師平間寺</li> <li>高橋昌也税理士・FP事務所</li> <li>株式会社デイ・シイ</li> <li>東亜石油株式会社</li> <li>株式会社東芝</li> <li>日本冶金工業株式会社 川崎製造所</li> <li>ぴあ株式会社</li> <li>ホテルメトロポリタン 川崎</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ヤマハサウンドシステム株式会社</li> <li>株式会社ワイイーソリューションズ</li> <li>* 大宮町内会</li> <li>他3法人</li> </ul> <p>【わくわくミュージア法人サポーター】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>稲毛神社</li> <li>おつけもの慶</li> </ul>						
<p>個人</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>阿部孝夫</li> <li>新井智彦</li> <li>市橋信一郎</li> <li>井上敏昭</li> <li>宇佐美清一</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>遠藤智和</li> <li>大越麻美子</li> <li>大須賀徳也</li> <li>大塚具幸</li> <li>岡垣克則</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>小笠原 将</li> <li>岡田 元</li> <li>岡野 功</li> <li>小倉ヒロ・ミハエル</li> <li>小野洋彰</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>金山直樹</li> <li>喜多紘一</li> <li>木伏源太</li> <li>久住映子</li> <li>小菅みつほ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>国府保周</li> <li>後藤 実</li> <li>小林知子</li> <li>佐伯 昇</li> <li>佐藤晴茂</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>佐藤義寛</li> <li>新保和浩</li> <li>杉山弘子</li> <li>鈴木甚郎</li> <li>鈴木 徹</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>高井延幸</li> <li>高橋美子</li> <li>竹内啓介</li> <li>都築 豊</li> <li>中村紀美子</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>西 洋子</li> <li>西山英昭</li> <li>長谷川喜代江</li> <li>林 直人</li> <li>廣瀬治昇</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>藤嶋とみ子</li> <li>堀江智巳</li> <li>前田 泉</li> <li>松嶋邦生</li> <li>山内利夫</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>山下啓史</li> <li>山田昌克</li> <li>D.Y</li> <li>K.O</li> <li>M.C</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>N.A</li> <li>T.Y</li> <li>他匿名16名</li> <li>敬称略五十音順</li> </ul>

ミュージア川崎シンフォニーホールの公演事業は、ホールスポンサーの皆様によって支えられています。